



山王地区には木工所が多くあって、鈴木さん兄弟の木工所は家具を作って百貨店に卸されていたそうです。その後、鈴木さんは「鈴木タンス店」を開かれ、1階2階に婚礼家具をはじめ様々な家具を陳列されていました。『私の婚礼家具は鈴木さんのところで買ったの』という方が何人もおられます。

奥様と永年律儀に丁寧にやって来られた鈴木タンス店。鈴木さんは、ちょっとかすれた声、はにかんだような笑顔、地域のお世話も班長や町会長として骨惜しみのない活躍ぶりでした。今回タンス店をお借りしてブレーカープロジェクトの新拠点として再生するにあたって、突然のお願いに応えてくださったご子息様。本当にありがとうございました。

アーティストによる鈴木タンス店の変身ぶりにはハッとする感動が!! 鈴木さんが使っておられた工具は2階の壁に飾られ、今まであった家具なども糸玉が置かれてさりげなくレイアウトされています。鈴木さんの存在感を残し、なにか懐かしいような雰囲気です。大きなガラス窓があって、外を歩いてもチラッと中をのぞくことができ、まちと一体化した風景となりました。

私の母も編み物が好きでした。幼かった私も両手を出し、左右に動かして糸のかせをつくる手伝いをしたのを覚えています。実家のどこかにしまわれている母の作品に出会いたいものです。「たんすレター」で、地元の女性たちの思いのこもったすばらしい手編みの作品に出会うのも、毎回楽しみです。



photo: 草本利枝

2013年5月2日(木)

「たんす」の前をとおりがかったNさんが立ち寄ってください、「近所のYさんのところに、同じ目数で編むだけでできあがるかわいらしいニットでできた人形があるのよ」と教えてくださいました。興味津々で話を聞いていたら、すぐにNさんがYさんのお宅に連れていってくださいました。Yさん宅で出会った人形はなんとも言えないあいらしさで、玄関にたたずんでいました。この人形をつくったのは近所のKさんで、他の方もプレゼントされていたとか。他の子はどんな表情をしているのだろうか。探してみたくまりました。(呉夏枝)



photo: OH Haji

たんすレター



第5号

おかげさまで、目標としていた一〇〇着の編み物が集まりました。「たんす」では、編み物をほどく作業を引き続き行っています。編み物にまつわるいろいろなお話を、ぜひ聞かせてください。